

5月号 School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン

Dream通信

2016. 5. No.98



明るい未来を創る ～感謝を胸に、今ここから夢に向かって～



みんなの健康と幸福をお祈りします

皆様、こんにちは。4月に熊本で震災があり、日本は今とても大変な状況にある事と存じ上げます。皆さまはご無事でお過ごしでしょうか。子どもたちに日本で震災があった事を話すと、里親様をはじめ、日本の事を思いとても心配していました。

職員、子どもたち含め、皆様のご無事と一日も早い復興を心から祈っています。

今回のドリーム通信では4月に行ったクメール正月の一時帰省についてと、去年の卒園生が園に来て近況報告をしてくれた時の様子をお伝えいたします。

クメール正月一時帰省

カンボジアでは4月にお正月があり、皆それぞれ故郷に帰り、家族と過ごします。園の子どもたちは年に2回、このクメール正月と10月のお盆に、育ての親の家へ一時帰省をしています。

一時帰省をするのは、園に来る前の自分たちの暮らしや、園に来た目的を思い出し、自分たちを支えてくれている周りの人たちへ感謝の気持ちを忘れないようにする為です。

今回の帰省は4月9日から4月18日の日程で行いました。9日と10日の2日間に分け67名の子どもたち全員をそれぞれ育ての親の元に送り届けました。

家では育ての親や親戚の方が子どもたちの帰りを笑顔で待っていました。

職員から育ての親に、園での様子や学校の成績について報告をします。生活態度に問題があった子にはしっかりと指導してもらうように、また中学3年生の子どもには高校進学について、高校3年生の子どもには進路について、よく話しをするようにお願いしました。

約一週間の帰省が終わり、18日に子どもたちを家まで迎えに行きました。子どもたちは皆とても元気そうな様子で安心しました。育ての親には帰省中どんな過ごし方をしたのか、何か問題はなかったか、そして持ち物について確認しました。

別れる際に育ての親から子どもたちへ「元気でね。頑張って



クラコー地区の子どもたちはバイクで



嬉しさで胸がいっぱい



久しぶりに家族が集まりました

勉強するのよ」等と声を掛けられ、子どもたちはお別れの挨拶と「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えました。

園の友だちと久しぶりに会った子どもたちは、バスの中で帰省中の出来事を話し、とても楽しそうでした。

子どもたちは皆無事に園に戻り、帰省後のミーティングでは帰省中どんな事をして過ごしたのか、事前ミーティングで伝えた事はきちんと守れたか、家に帰って感じた事等を発表しました。

帰省中の日記にも「市場に食材を買いに行き、料理の手伝いをした」「親戚と一緒に寺に行った」等、充実していた様子が伝わる内容がたくさん書かれていました。

普段は離れて暮らしている育ての親と子どもたちが別れの姿を見ていて、お互いに特別な存在であるのだと改めて感じました。日々子どもたちの成長を近くで見ることが出来ない育ての親に代わって、職員は子ども一人ひとりと日々しっかり向き合い、寄り添っていかなくてはならないと強く感じました。

「家族を助けたい」という思いがある園の子どもたちは今回の帰省でよりその気持ちが強くなったのではないのでしょうか。

将来をしっかりと考え、今の自分を見つめ直し、支えてくれている周りの人たちへの感謝の気持ちをいつも忘れずに、頑張っ



勉強を頑張る事を約束しました

去年の卒園生7名来園、皆に近況報告

最後に進路が決まったモーン・ニセットも無事に医大に通い始め、全員がそれぞれの新しい道でスタートを切りました。

8日に来園し、大学や専門学校の勉強の様子や今の生活について、一人ひとり話しをしてくれました。

「勉強は難しくて生活するのは大変だけど、自分の夢の実現の為に前を向いて頑張らなくてはいけない」と力強く話をしてくれました。

そして「ここまで成長することが出来たのは、たくさんの人たちの支えがあったからです。本当にありがとうございます」と感謝の気持ちを伝えてくれました。

最後に園を代表してチョム・サルーンから「今日は皆に会えて本当に嬉しかったです。僕は今年高校卒業試験と来年には大学受験があるので、頑張っ

て勉強して必ず合格します」と挨拶し、最後に全員で大きな拍手を贈りました。

卒園生の7名は夢に向かって走り出したばかり、将来その夢を掴むことが出来るように頑張っ

てほしいと思います。今の高校3年生にとって、卒業生に会えた事はとても良い刺激になったと思います。今どれだけ頑張れるかが、長い将来を左右することになる、悔いのないよう



ハイ・トール 勉強中の日本語で近況報告



サルーン(高3)からエールを贈ります